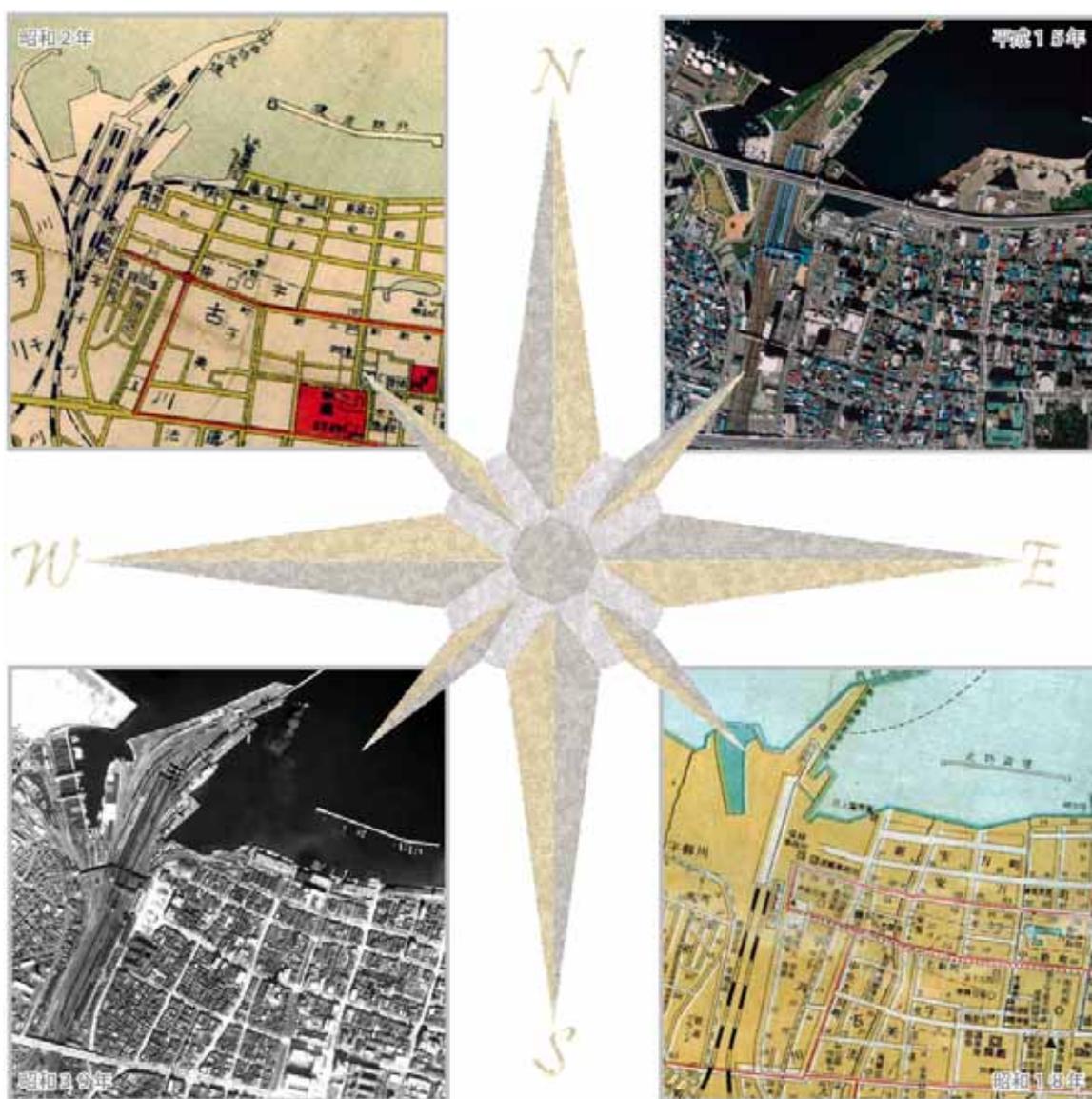


青森駅を中心としたまちづくり ～ 鉄道と街を育み 市民の心を元気に～



平成 21 年 12 月
青 森 市

< 目 次 >

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 青森駅を中心としたまちづくりの方向等について..... | 1 |
| 1 - 1 目的 | 1 |
| 1 - 2 範囲及び目標期間 | 2 |
| 2. 青森駅周辺地区の位置付け及び現況 | 3 |
| 2 - 1 青森駅周辺地区の位置付け | 3 |
| 2 - 2 青森駅周辺地区の変遷及び現況..... | 5 |
| 3. 青森駅周辺地区への市民意見 | 9 |
| 3 - 1 あおもり市民 100 人委員会 | 9 |
| 3 - 2 広報あおもり及び市ホームページによる募集 | 18 |
| 3 - 3 市民意見の総括..... | 21 |
| 4. 青森駅を中心としたまちづくりの課題..... | 23 |
| 5. 青森駅を中心としたまちづくりの方向等 | 27 |
| 5 - 1 まちづくりの方向 | 27 |
| 5 - 2 今後の展開..... | 28 |

1. 青森駅を中心としたまちづくりの方向等について

1 - 1 目的

青森市は青函連絡船により本州と北海道を結ぶ交通・物流の要衝として発展してきました。特に青森駅は明治 24 年に開業し、以来、多くの旅客で賑わい、また、その周辺には旅客向けのサービスを提供する商店が多く立ち並ぶなど、商業を中心とした賑わいが形成されてきました。

昭和 20 年の青森大空襲により市街地の 9 割が焦土と化したものの、礎となる青森駅を中心とした市街地の復興を遂げ、今日の中核都市としての本市があるところです。本市の近代史は鉄道の歴史とも重なる部分が多く、本市の発展は港と駅に支えられ、鉄道は地域全体の共有財産であり、また、駅はまちの顔と言えます。

青森駅周辺地区には、ラビナやアウガ等の商業機能のみならず、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、青森市民ホール等、様々な都市機能が集積しているほか、現在も、ねぶたの家ワ・ラッセや駅前広場の整備を進めるなど、青森駅を中心とした賑わいをウォーターフロント地区と連携し、周辺へと広げる取り組みを進めています。

青森駅は、平成 22 年 12 月の東北新幹線新青森駅開業に伴い、八戸・青森間の特急列車が廃止されますが、引き続き JR 各線や青い森鉄道線、路線バスなど、市民の公共交通の中心として機能していくこととなるため、多くの人が集う駅の特性を活かすことで、まちに新たな賑わいを創り出していく必要があります。

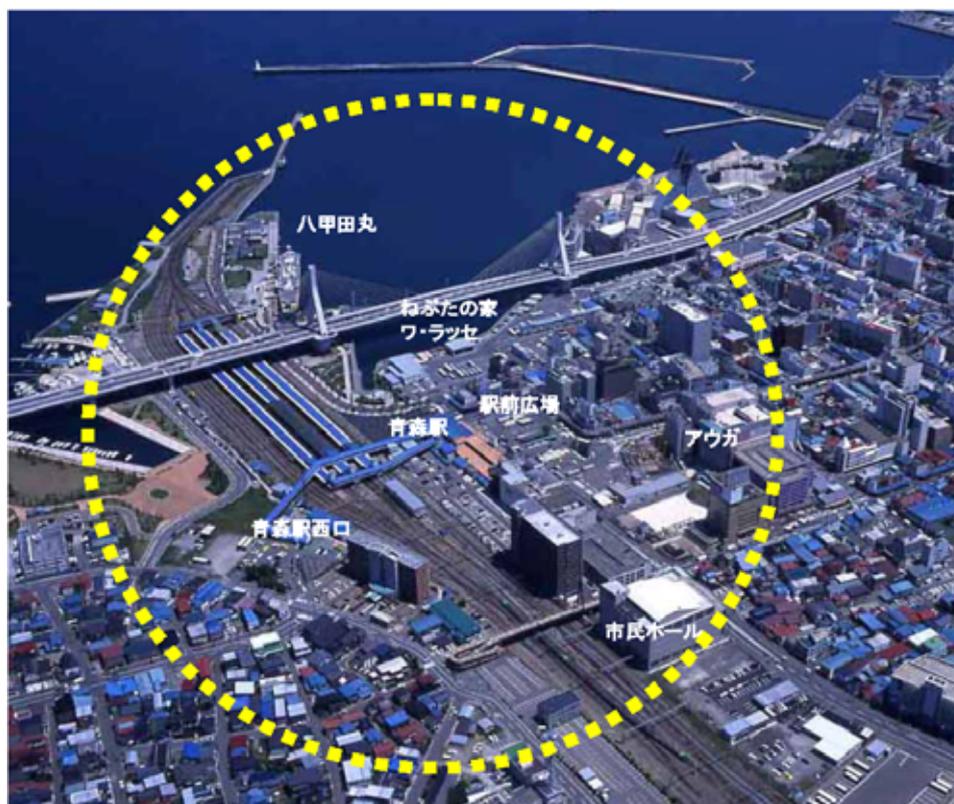
そこで、広く市民の皆さまの意見をお聞きし、地区の課題や求められる機能などに対する認識を深めることにより、新幹線開業後を見据えた青森駅及び周辺地区のまちづくりに関し、今後の市の取り組みの姿勢等の基本的な方向を示すことにより、本市の都市づくりの理念である「コンパクトシティの形成」及び「中心市街地活性化」に資することを目的とするものです。

今後、本方向等に基づき事業を実施するにあたっては、経済社会情勢等、様々な状況を勘案し、更に市民の皆さまのご意見を聴きながら実施計画を作成することにより、本地区のまちづくりを進めていこうとするものです。

1 - 2 範囲及び目標期間

(1) 範囲

青森駅を中心に、ウォーターフロント地区や駅西口周辺を含む概ね下記に示す地区を対象範囲とします。



(2) 目標期間

中期目標を北海道新幹線（仮称）新函館駅開業時とし、以降は長期的な課題として整理します。

2. 青森駅周辺地区の位置付け及び現況

青森駅周辺地区について、上位計画等の将来構想における位置付けと、地区の変遷から現況を整理します。

2 - 1 青森駅周辺地区の位置付け

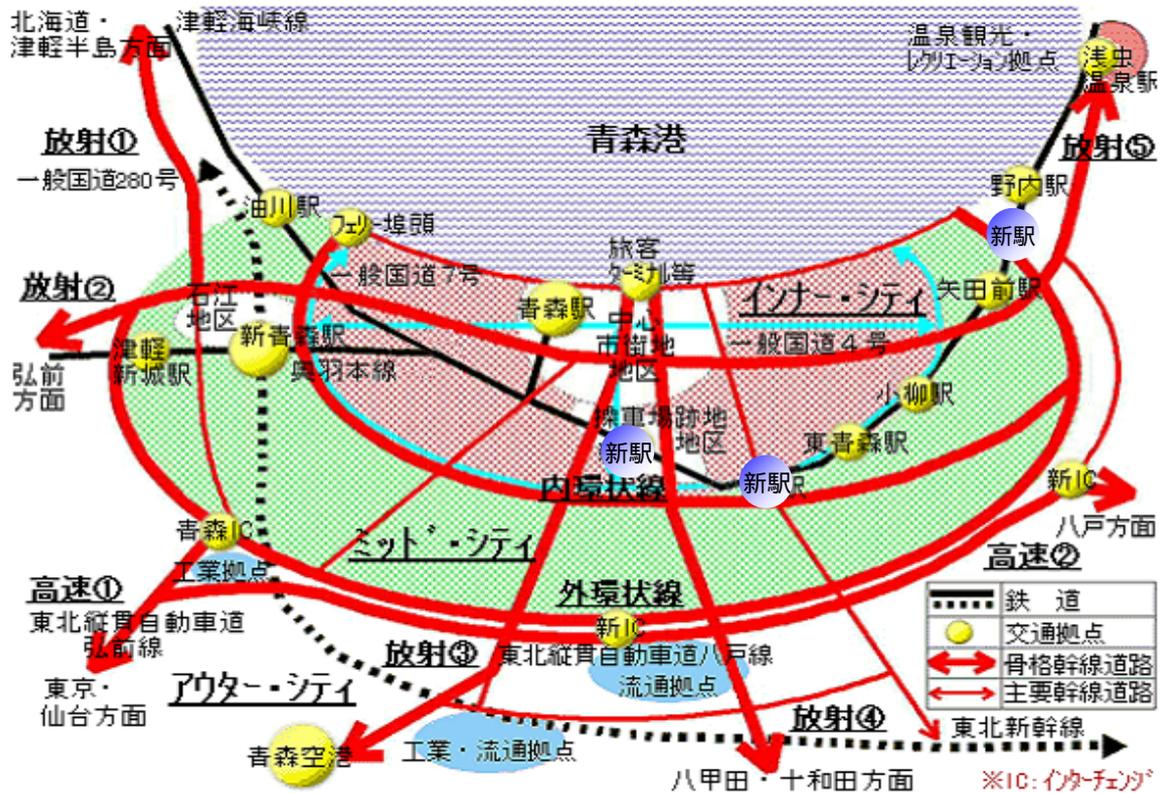
(1) 青森市総合計画「ネクスト Aomori 推進プラン」(平成 18 年 8 月策定)

目指すべき将来都市像を「恵み豊かな森と海 男・女(ひと)が輝く 中核都市」と定め、本地区において新幹線開業効果の受け皿となる魅力ある拠点整備を計画的に推進することとしています。

また、新幹線効果を積極的に活用し、ウォーターフロント地区との連携を高めながら人・モノ・情報がさらに集積し、来街者の多様なニーズを満たす中心市街地の形成を目指すこととしています。

(2) 青森都市計画マスタープラン(平成 11 年 6 月策定)

人口減少や少子高齢化、環境問題等の社会環境の変化へ対応するとともに、豪雪都市であることなどを踏まえ、市街地の拡大と人口空洞化、都市サービスの郊外化などの問題へ対応するため、「コンパクトシティの形成」をまちづくりの基本理念とし、本地区を、高次の都市機能が集積し、交流・業務・商業・生活等の拠点であり、青森市の顔としての賑わい機能を担う地区と位置付けています。

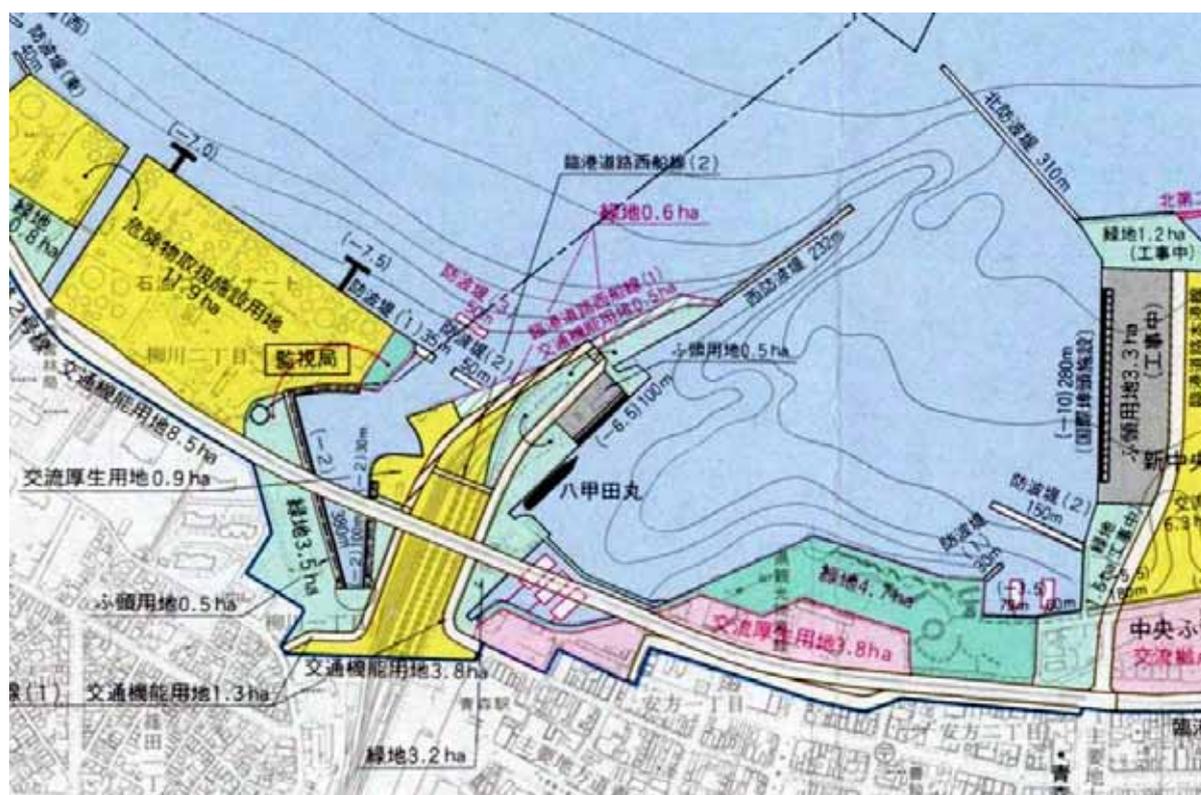


(3) 青森市中心市街地活性化基本計画（平成19年2月策定）

青森市総合計画や青森都市計画マスタープランの具体化に向け、本市の中心としての役割を果たしている本地区を、コンパクトシティ形成を牽引する核と捉え、歩いて楽しめるまち「ウォーカブルタウンの創造」の方針の下、「街の楽しみづくり」「交流街づくり」「街ぐらし」「中心市街地の商業の活性化」を目標に、中心市街地の活性化に取り組んでいます。

(4) 青森港港湾計画（平成13年12月改定）

計画方針を、臨海部の特性を活かした親水空間の充実、都市との連携強化に対応した交流空間の形成、臨港交通体系の充実等と掲げ、本地区の位置する本港地区については、旅客船ふ頭や公共マリナーを中心とした交流拠点・緑地レクリエーションゾーン等と位置付けられています。



2 - 2 青森駅周辺地区の変遷及び現況

(1) 青森駅周辺地区の変遷

青森駅周辺地区の過去約 30 年における変遷を比較すると、様々な都市機能の配置・更新が行われてきました。(図 1)

青森駅の周辺は、線路などの鉄道施設によって東西の市街地の往来には駅構内を通過する必要がありましたが、東西を結ぶ青森ベイブリッジやあすなる橋が整備されています。また、一部線路がなくなり、駅の北側・西側には公園等の緑地、南側にはラビナや民間マンション、現在の市民ホールなどが整備されました。

ウォーターフロント地区では、港湾部の埋立てにより、アスパムや青い海公園等が整備されています。

その他中心市街地内では、県立中央病院や県立図書館、みなみ百貨店が郊外へ移転し、県立中央病院跡地は青い森公園、県立図書館跡地は県庁北棟として土地利用がなされています。

小規模な商店等の密集地は、駅前のアウガ等高度化される一方で、空き地や屋外駐車場などの低・未利用地の増加も散見されます。

(参考) 青森駅の歩み

| 年 月 | 青森駅の歩み |
|--------------|----------------|
| 明治 24 年 9 月 | 東北本線上野・青森間全線開通 |
| 明治 38 年 9 月 | 奥羽本線福島・青森間全線開通 |
| 明治 41 年 3 月 | 青函連絡船就航 |
| 大正 13 年 5 月 | 青森駅舎改築 |
| 昭和 23 年 12 月 | 青森駅西口竣工 |
| 昭和 34 年 12 月 | 現青森駅舎新築 |
| 昭和 62 年 4 月 | 東日本旅客鉄道株式会社発足 |
| 昭和 63 年 3 月 | 青函連絡船廃止 |

(2) 青森駅周辺地区の現況

青森駅周辺地区に立地している主な公共・公益施設の状況は次のとおりです。

(図 2 及び図 3)



図1 青森駅周辺地区の変遷



図 2 青森駅周辺地区現況図

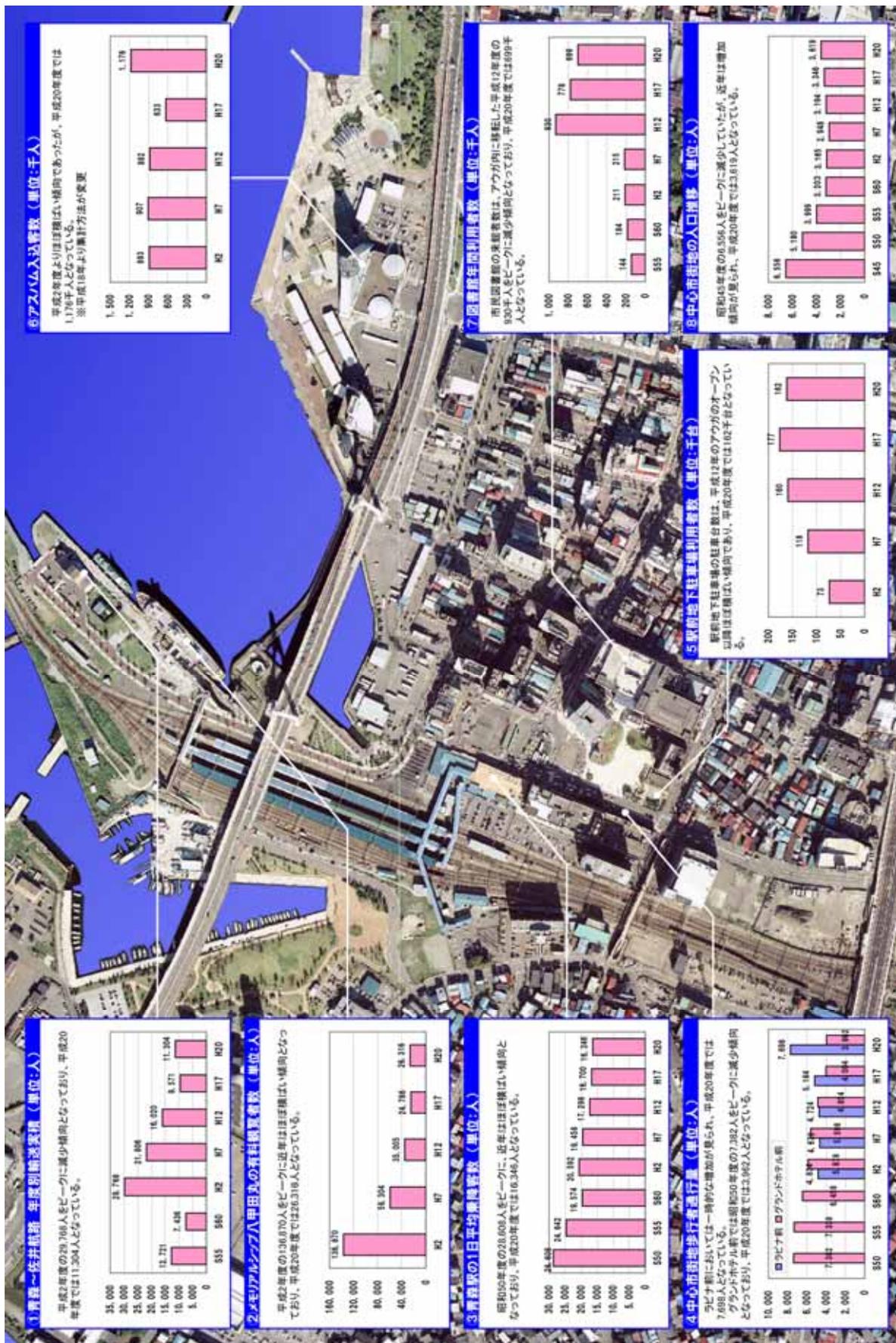


図 3 青森駅周辺地区施設利用状況図

3. 青森駅周辺地区への市民意見

本地区における問題・課題などを把握し、また活性化に向けた検討の参考とすることを目的に「あおり市民 100 人委員会」から意見を聴くとともに、広報あおり、市ホームページ、新聞等を活用して市民意見の募集を行いました。

3 - 1 あおり市民 100 人委員会

開催日時：平成 21 年 10 月 26 日（月） 18：30～20：30

10 月 27 日（火） 19：00～21：00

概 要：2 日間の委員会で延べ 47 名の委員から意見をいただいたほか、後日欠席委員及び未発表委員 39 名から、文書等で意見をいただきました。

【現青森駅に関する意見】

今の駅舎は魅力がないので県産ヒバ材などを使った昔風の魅力ある駅舎へ改修
青森駅を 1 階は駐車場、2 階を改札口にする構造で改築し、文化観光交流施設やアウガに連絡通路で直接アクセスできるようにする
市民ホール、ラビナ、駅舎を空間通路でつなぐ
2 階が駅利用者用のコンコース、1 階はバスターミナル等の車両利用として整備
青森駅舎を新築する
駅をきれいにしたい
青森駅を新築する
小さくても良いので夢のある、ほっとするような香り漂う駅舎にしたい
青森駅に北口を設け、アスパムや八甲田丸方面に行けるようにする
現青森駅の改修を検討しては
駅の待合室の椅子の増設
高い利便性を提供するための青森駅を整備し、よりよいサービスを提供するため青森駅周辺に公共施設を整備
駅をはじめとする全ての公共施設を「青森県全ての物産、観光、各市町村の情報等」の情報発信、体験の機能を備えた施設として整備しては
駅舎を改築してほしい。無理であれば、ラビナを拡張して駅と一体化させる
1 階部分を車、2 階部分を人が利用できるようにし、駅から 2 階部分に直接出入りできるようにし、バス・タクシーの降り口を設ける。新町にも直接行けるような階段とエレベーターを併設した二層式駅前広場にしては
現青森駅建て替えについて、青森らしいデザインを市民から公募しては
現青森駅の建て替えを検討してほしい
バリアフリーな駅にするのはどうか
青森駅の 2 階にも改札をつくり、ラビナと連結させては
現青森駅は、青い森鉄道の始発点になると思うが、通勤・通学か車を利用しない少ない層の市民の足でしかない
青森駅舎は JR のものなので、建物の外側だけでもモダンな外観にするよう要望してほしい

新青森駅を利用するお客様も現青森駅を利用することも多いと思うので、規模があまり大きくなくても良いので、駅を新しくしてほしい

【交通環境に関する意見】

無料駐車場を整備する。高齢者が気軽に利用できる低床バスや細い道でも運行できる小型バスの導入、無料もしくは定額のシャトルバスの運行

新町周辺の駐車場を無料化、少なくとも、官公庁、銀行、証券会社の駐車場は土・日・祝は無料開放にしてもらっては

土・日・祝日は公共の駐車場は無料にする

あすなる橋はバリアフリー面等で課題があることから、冬期間でも利用しやすいよう改築し、有効活用を図る

駐車場の無料化、新町通りに駐車できるように

ナンバーによる車両進入制限や公共交通利用者へのエコポイント付与など、乗用車の乗り入れ制限を行う

駅周辺地区をコンパクトに回る交通機関の充実が必要では

期間限定で無料駐車場の実験をし、駅前に大規模駐車場を整備

駐車場の整備が必要

歩道が凸凹でバリアフリーになっていない。丁寧な道路・歩道の整備を

駐車場は無料ではなく、少額でも料金は払うべき。運営方法は検討が必要

新町通りは自転車道路が直線的ではなく不便

バス、タクシー、自家用車の乗降場所を区分した駅前の交通環境の整備

あすなる橋を自転車、バイク専用にし、余剰となる歩行者空間を駐輪場に

送迎用の一時駐車スペースがある駐車場の整備が必要

駐車場が欲しい。新町通りにも駐停車できるスペースが欲しい

自転車が直線的に移動できるよう整備してほしい

駐車場の無料化は民間圧迫になるので無理

市営バスをワンコインで使えるようバス料金の見直しが必要では

あすなる橋を全天候型に改修し、駅には自由通路を設置しては

自動車の利用に対する時間制限を行うほか、買い物自転車の貸し出し

駐車場の無料化は反対。税金によるものなので子供の世代への負担が増える

あすなる橋に屋根をかけ、エレベーターを設置してはどうか

ラビナ前の歩道には信号がなく危険なため、安全面の確保が必要では

駅前の駐車場無料化を検討してみても

駐車場の無料化により、ルールを守らず、放置車両の問題も出るので反対

自由における駐車場が必要では

きめ細やかな交通網の整備が必要では

駅からウォーターフロントに迂回して安方通りに抜ける道路と駅から国道7号線に抜ける道路を整備しては

駐車場を設けるために市民ホール前帯を買収し、その駐車場から、国道4号、7号につながるインターを設置する

八甲田丸周辺の空き地やアスパム広場の一部を駐車場にし、アスパムの駐車場と共に無料にするのはどうか

市民ホール隣の駐車場に4階建て程度の駐車場の新設を検討しては

新町通りの半分を一方通行にし、残り半分を自動車が斜めに無料駐車できるレーンにしては
バスロケーションシステムの完全導入、従来型の電光掲示板方式ではなくIT技術を利用した通知システムの導入、電子マネーのチャージが可能な電子カードや携帯電話での決済ができるシステムの導入の検討が必要では

駅近辺に格安な広い駐車場を設置しては

観光施設へマイクロバスでの無料送迎をしては

駅前周辺の駐車場無料化は難しいのでバスを無料化にしてはどうか

盛岡都市循環バスのような便利な交通アクセスの検討をしては

新町地区の方々が駅前公園に大型駐車場を建設しては

新青森駅と現青森駅の鉄道アクセスの効率化が必要である

新青森駅から青森駅、ねぶたの家、八甲田丸、アスパムへのシャトルバスの運行と車内でのガイド案内

車社会であることを考慮したうえでの独自戦略や、車で集まってくるという郊外の大型ショッピングセンターや娯楽施設のケースとの別の方向性が必要ではないか

自転車、歩行者の人にこそサービスする

駅 - 郊外の無料シャトルバス

短時間で買い物しやすいよう、駐車料金メーターを設置した駐車場の整備をする

駅前に団体バスの乗降エリア、待機エリアを充実させてはどうか

現青森駅と新青森駅のアクセスの整備と利便性が必要だと思う

【東西道路に関する意見】

駅の改築にあわせて現在のホームを短縮し、自動車用の東西道路をつくる

ホーム北側を100m短縮し、東西連絡道路の建設や魅力ある施設を配置

新町通りから駅西口へ向けてバス路線も通るような道路をつくり、東西の人の流れを生み出す。市役所本庁舎を柳川庁舎に統合すれば、さらに人の流れが生まれる

駅東西の移動のための自動車専用道路を新設しては

駅舎の跨線橋と並行した東西連絡通路を設置

駅東西をつなぐ道路の整備

駅舎を南側に移動し、東西を結ぶ道路を整備

どうしても現青森駅周辺に人を集めたいのであれば、現青森駅を少し南にずらし、北側のウォーターフロントの周辺を東西に通過できるようにしては

【ウォーターフロント地区に関する意見】

ベイブリッジの下を青森の食を堪能できる市場（屋台）にする

観光客に活用してもらえよう、八甲田丸をカジノにする

八甲田丸をものづくり（ガラス工芸等）体験学習の場に

青い海公園周辺を日光浴、海釣りなどのできる広場にして回遊性を持たせる

八甲田丸周辺に八食センターのような観光客・市民が共に利用できる施設や展望温泉のような

ものをつくっては

駅のホームを 150m 程度南に移動し、大型ショッピングセンターを誘致し、400～500 台程度の駐車場を整備

港で魚の水揚げやせりを見せる

八甲田丸、ワ・ラッセ、アスパム周辺を巡る循環バスを運行する

日常、親子連れや1人でもふらっと行ける感覚のまちづくりが必要では

ウォーターフロント、八甲田丸周辺について、公園、遊具、ドッグランなど、集いの場として整備
文化観光交流施設を「ねぶた」のみならず郷土芸能を紹介する拠点施設とする

八甲田丸を陸に上げて、修学旅行などをメインに、素泊まり専用のホテルにする

ワ・ラッセ内に団体で来た方が昼食をとれる設備があれば

駅北側の線路が短くなるのであれば魚菜市場のようなものを

駅を南側に移し、子供が集まれるような大きい公園やイベントが必要では

アスパム周辺、八甲田丸周辺の港の景観を大事にして欲しい

小さい頃からマリンスポーツなど、海に親しむ空間をつくり、海遊人口を増やしたい。その際、八甲田丸をクラブハウスに

八甲田丸周辺に堀を作り、島のようなエリアを形成させ、工芸などの施設を集積

ウォーターフロント地区と浅虫を往復するナイトクルーズ

ウォーターフロントへ全天候型の「さんふり横丁」のような場所を設置

年齢層が上の子供が遊べるアスレチック施設を設置

県内各地の地場産品の売り場を設置

青森駅を南側に移動できるなら、駅北側に駐車場や飲食店を整備

ノルウェーのオスロ市役所のように、ウォーターフロントに市役所を移転

八甲田丸、ワ・ラッセを子供たちの教育の場に

みちのく北方漁船博物館にある飛行機 YS-11 を八甲田丸の近辺に移動し、屋根をつけて展示しては
「ねぶたの家」内に、市内一望できる展望台、ものづくり講習所、イベント場設置を検討しては
八甲田丸やアスパムでの常時イベントの実施、特産品の品揃えの増加、全国各地への宣伝の強化が必要

八甲田丸のPRの推進、設備、サービスの見直しの検討が必要

文化観光交流施設を市民が利用できるようにする

公園の有効活用を図るため、ウォーキングコースや芝、駐車場の整備など、そこに行きたいと思わせる設備にして欲しい

ねぶたの館の多目的な活用を望む

駅からアスパムまでの間に名産物センターを作り、食で観光客を呼ぶのはどうか

八甲田丸周辺のウォーターフロント地区の活性化をして欲しい

船の博物館～八甲田丸～合浦公園のコースを花見の時期から9月頃まで土・日・祝日運行させては
ウォーターフロントの緑地を活用するため、浮浪者を排除し、草刈を徹底して清潔感を出すことが必要

【西口周辺に関する意見】

駅西口にある観光資源（森林博物館、みちのく北方漁船博物館など）を有効に活用し、商店街の振興につなげる

新青森駅と青森駅のアクセスバスを駅西口や周辺の観光施設経由にし、観光客を西口エリアに誘導する

駅西口エリアへの駐車場整備

西口と駅正面を自転車や高齢者にも優しいバリアフリータイプの地下道でつなぐ

駅西口は自転車道路がなく、バリアフリー面でも課題があるので改修しては

西口にもバスターミナルを設置し、西部方面行きのバス発着所とする

駅西口に大型ショッピングモール、新町方面は伝統を中心とした個店

西口には公園が整備されているので、東西を自由に行き来できるようにし、東口の商業機能と西口の公園を一体化する

駅西口にバスターミナルをつくっては

西口に西部方面のバスターミナルを整備

駅西口へのバスロータリー建設を検討しては

駅西口にも駐車場を設置しては

駅西口方面にもホテルやショッピング施設を建設しては

駅西口の駅舎を木造を主体とした建物に建て替え

駅西口駅舎に接続するようにして樹種や花等を植え、本駅の景観と対照的にする

駅西口を青森市西部及び外ヶ浜町方面への玄関口としてPRしては

駅西口の駐輪場の整備が必要では

【その他まちづくり全般に関する意見】

駅西口を含めた総合計画を作成して欲しい。その中で、行政窓口機能移転も一つの手法となる

観光客を集めるためには「食・観・遊」が必要

公共のインターネットが接続できる場所を設置しては

中心商店街の空き店舗を大学のゼミや研究室に格安で提供してはどうか。また、大学と中心市街地を結ぶ無料（低額）シャトルバスを運行するべき

青森出身のアーティストに、空き店舗をミニ美術館やミニミュージアムとして活用させ、交流空間を提供してはどうか。また、ACAC や県立美術館のアンテナショップとしてはどうか

青森駅前に棟方志功記念館を移設したり、志功の生家を再現したり、みちのく北方漁船博物館や美術館を駅周辺に移設するなど、文化遺産の集積を図り、文化と歴史の街としての発展を目指す

行政と経済界の合同で取り組む

青森のファーストフードとして、飴せんべい、チリンチリンアイス、生姜味噌おでんを駅周辺に屋台として設置しては

都市伝説（南京錠で恋が叶うとか）的な面白みの創出

新町に田んぼを設置

駅周辺の既存施設を最大限利用するため、ソフト面の活動の充実を図り、地元や企業とのつながりを構築する

駅周辺に大きな病院や元気プラザのような施設を設置し、必ず人が来る場所にする

駅の学生利用が少ないが、若者が集まるまちでないと活性化しないと思う

第三セクターを立ち上げ、空き店舗を借上げ又は取得し、一坪単位のテナントとして貸し付ける

アーケード街にして歴史と現在の融和を目指してはどうか

冬も楽しめるまちとするため、地下道を整備しては

新町通りや夜店通りに全天候型のアーケードの設置

新町通りでトロッコ列車を運行

アウガの地下から市場を移転してはどうか

アウガの1フロアを全てオープンスペースにし、冬場でも老人から子供まで休める場に

アウガ内の図書館や「さんぽぼ」を駐車料金も含め利用しやすいようにする

八食センターのように、お土産購入や観光を一箇所で全て賄えるような場所を設置

新町近辺の空き地を活用し、命の教育のためのドッグランを整備

空き店舗対策として県外のアンテナショップを誘致

若者が集まるようなイメージづくりが必要、例えば通り名の変更

駅前に地元の料理や名産品をアピールできるスペースを設置

カジノを建設し、世界の富豪の集まる都市にする

駅周辺に屋台村をつくる

恒常的に人が集まることが重要であり、駅周辺に公共施設を設置する

青森駅周辺に安らぎの場が欲しい

市民ホール南側空き地に2階建ての魚菜市場を新設し、現状4箇所に点在している市場を集約し、アウガの地下は銘店街に、古川の魚菜市場跡地は災害時の避難場所ともなる憩いの広場にモノレールを建設しては

駅は駅とつながっていることに着目し、市内の駅周辺を全体的に活性化する必要があるのではないか

駅前公園を有効活用してはどうか

青森市の駅周辺の宅地化・オフィスなどの誘致により、駅の利用客が増加すればおのずと活性化するのはないか

現青森駅は「青森らしさ」を表す場所であり、ここを中心として活性化していくことは「一般市民としての思い」及び「経済的ロスを最低限に抑え、現状あるものを最大限に有効に活かす」観点から、自然であり当然の流れと思われる

青森市の将来に向けても現青森駅周辺に存在する、様々な有形・無形の「ヒト資源」「歴史資源」「地域資源」「文化資源」などを活かしたまちづくりが望ましい

新幹線開業の際、現駅周辺の整備と新駅から現駅へのスムーズな接続列車による誘導が「青森ねぶた」と「浪岡りんご」を持つ青森市の価値を存分に発揮し、将来につながっていく

市内の観光資源を全国にPRするため、駅前から観光バスを出発させるプランを

B-1グランプリに参加した県内の料理を楽しめる場所を設置

市内には4つの大学があり、総勢約4400名の学生がいる。大学を活用した地域の活性化も一つの考え方

観光客が新青森駅から現青森駅へ向かう動機がない

若者、高齢者、観光客など、全部を狙うのは無理があるので、ターゲットを絞るべき

駅周辺のアウガや市民ホールの活用されていないホール、空ビル・テナントへ大学や専門学校

などのキャンパスを配置しては

新町通り、夜店通りなどのテナント料の値下げ促進を市が行っては

新町通りの空き地・空き店舗を活用して、観光案内や休憩所、市内案内所を設置する

駅周辺の地区だけを対象としたまちづくりを検討するのか疑問

「青森駅前テーマパーク構想」として、定期的に駅前から柳町までの歩行者天国の実施や、夕方に宵宮の雰囲気を楽しむための出店の設営、野外多目的ホールでの多様なパフォーマンスを実施

駅周辺に新設する建設物やテナントについて、若者から事前アンケートを実施しては

駅周辺のエリアに市の文化施設を集積させる

駅前公園が憩いの場となるように樹木や水辺のものをつくる

駅周辺地区の公共施設と商店街との連携で、客が回遊して楽しめるまちづくりを

「旧さ」を感じさせる街並みの特色が欲しい

通りを「花と緑」で埋め、特徴のある通りとする

市が助成し、老朽化した建物の建て替え促進や、買収により街の「色」を変える

人の流れを確保するため駅と新町の間アーケードを設置する

アウガのコンセプトを各年代が集うテナント構成に変えてみては

駅前の照明を明るいものにして欲しい

誰のためのまちづくりなのかはっきりさせることが必要

駅に隣接する「りんご市場」をもっと目立つようにして欲しい

音楽好きの若者へストリートライブの場所としてパサージュ広場を利用できるようにする

商店、ショーウィンドウは夜 10 時頃までは照明を落とさないように

青森の有名な板画の作品を一堂に集めた館を設置

老朽化した既存の施設・建物を有効に活用する

横断歩道の整備や分かりやすいマップ等、高齢者、障害者、子供達にやさしいまちづくりに向けて検討しては

まちづくりには選択と集中が必要

電気の専門店街をつくってはどうか

駅周辺地区にそれぞれ年代ごとの居場所を設ける

中心市街地衰退の分析をし、行政が主導し 3 ヶ年の活性化計画を策定してはどうか

駅前商店街関係者その他と話し合いの上、中心市街地に出展区画割当て事業が必要なのではないかと

趣味の教室や子育て相談、食べる場などに空き店舗を活用し、道を歩いて楽しくする

駅東口前に「りんごの木とふくろう」のオブジェを作る

市役所の一部をアウガへ移転し、店舗・図書館の整理をする

新町通りへ憩いの場としての軽喫茶のような店を設置

駅前公園は雰囲気が出るように工夫

情報センターのガラス窓の文字のベタ貼りをやめて、ネプタ、八甲田山、白神山地のシールやイラストにしてはどうか

アウガから市民ホール等に図書館・男女共同参画プラザ・パソコン教室等に移し、水車のあるホールは有料喫茶室へ。空スペースにはシニア向けテナントやスポーツジム等を入れる

新町のビル賃貸料の引下げの検討、新規テナントの設置を呼び込んでみては

店舗の清潔感や、市場としての活気、ゆったりと買い物ができる整理された店構え、駐車場スペースの確保などの改善を図るべき

商業活性化を個人起業家の出店だけに期待するのではなく、地域商店街が地域全体の事業の方向を連携してつくりあげることが必要ではないか

市民に向けた、店の「魅力」の情報発信を恒常的にしてはどうか

観光交流情報センターと新青森駅内の観光情報提供施設との連携で、お客に必要な情報や移動に必要な情報を提供し、中心市街地への誘導を図る

自動車を利用してくるお客さんにあった個性的な商店街の工夫を

若い観光客には無料自転車を貸し出して、駅前観光スポットを廻るようにPRするとともに、新町の歩道も自転車用に整備が必要ではないか

冬でも滑らない新町通りにする

新町通りの空スペースを利用して「町の駅」をつくってはどうか

トイレのバリアフリー化が必要である

ニコニコ通りや古川市場周辺地区などの昔ながらの風情が残る観光スポットやアウガの新鮮市場の情報を全国へもっとアピールする必要があるのでは

現青森駅を中心としたまちづくりだけではなく、浜田地区・新青森駅地区などを中心街として考えても良いのでは

ヘルメット付きの貸し自転車サービスの実施

青森の文化や芸術に触れる施設をまわり、生活者の足としても活用できる縄文バスを100円均一で運行させる

駅前健康相談や介護相談が気軽にできるようにするのはどうか

空き店舗を「自習室」として開放し、知識や情報交換の場になるようにするのはどうか

青森駅前に陶芸教室（金山焼、むつみ窯等）を開講し、旅行客が2度3度寄るように（色付け、焼き上がり）してはどうか

市、市民、関係団体の連携を図り、市民の意識向上のため、まちづくりについての「目安箱」を設置する

空き店舗を活用し、津軽三味線等の郷土芸能を活用した集客をしてはどうか

県産品のPRと販売を行う。また、空き店舗を活用し、県産食材を提供する庶民的感覚の店舗を展開してはどうか

高齢者同士が交流できる空間、施設（空き店舗等）の整備をしてはどうか

新町通りの南側のイベントが多いが、北側の活用について、商店街や関係者で工夫してはどうか

「雪に強い青森」「高齢・福祉社会」のシンボル地域として整備してはどうか

徒歩の時代に見られた街路や水路、自然等が組み合わせられた街並みとして整備してはどうか

住民参加のまちづくりを根付かせ、環境に調和した災害に強い中心地域としてはどうか

「まちづくりは人づくり」のコンセプトのもと、生涯学習のまちづくりの中心地域として位置付けてはどうか

現青森駅と新青森駅間を連結させる地下街をつくってはどうか

りんごで有名であるにもかかわらず、駅に降りたときにどこに売っているのかわかりづらいので、駅前公園のスペースを借りて、りんご売場を何件かまとめて設置してみてもはどうか

八甲田丸までの道順を青森駅にわかりやすく示して欲しい

青森の若者と子供に音楽を通して元気さと自信を持ってもらうため、駅前公園で気軽に参加で

きる野外コンサートを開催してはどうか

あえて交通の利便性を高めなくても、魅力あるものが沢山あるのだから、田舎の味を出してもっとPRし、安息の地、全国の田舎を目指してはどうか

見る、食べる、体験できる、利用できる施設が点在していれば、もっと魅力あるまちになるのではないか

アウガ、市民図書館、これからできる文化観光交流施設や市民美術展示館が駅周辺にあって歩いて回れるところにあって便利なので、さらに人が集まるように、市役所や働く女性の家、勤労青少年ホーム等の施設を駅周辺に配置してみてもどうか

市民にとって暮らしやすい魅力あるまちは、観光客にとっても、ビジネスにとっても魅力あるまちになるのではないか

3 - 2 広報あおもり及び市ホームページによる募集

募集期間：平成 21 年 11 月 1 日（日）～ 11 月 14 日（土）

募集結果：12 名の方から意見をいただきました。

【現青森駅に関する意見】

駅の長いプラットホームは必要ないので、ホームを南側に少しずらし、駅の出口を八甲田丸に向けることで、観光客を海と八甲田丸が迎えるような趣きのある駅に

現在の駅は、バリアフリー化されていない跨線橋や冬でも海からの風が吹くホームなど、観光客を迎え入れる施設とはいえないので、コンパクトシティの中心として青森駅を考えるなら、ホームの短縮・移転及びラビナを含めた、駅の規模を縮小した新築は絶対に必要

ホームから海が眺められ、北の最果てを彷彿させ、旅情を誘うような木造の趣きのある駅舎にして欲しい

駅前広場をどんなに立派に整備しても、その中心軸となる駅舎自体が時代遅れの容姿のままでは片手落ちで、ミスマッチな都市景観を生み出しかねないので、まず旧態依然と貧相な都市イメージを想起させる現青森駅舎を、誰にでも誇れる、県都たる都市の本格的ステーションビルへと変貌させるべく、建て替えを目指すべき

【交通環境に関する意見】

市内観光や市民の利便性の観点から、徒歩、自転車、船、バス、電車を最大限リンクさせるほか、現状のインフラの利活用などで動線を強化しては

青森港の観光遊覧船を市バスとして、フェリー乗り場～青森港～浅虫温泉のコースを運行させ、自転車の積み込みやバスカードの利用を可能にする

新しい駐車場を建てる前に、週末や祝日に使われていないスペース（官公庁・銀行）を利用しては

【東西道路に関する意見】

今は駅を通るにしてもお金がかかるし、橋を通るにしても自転車や高齢者に優しい環境ではない。ホームをずらし駅西口と東口を道路で繋ぎ、人も車も通れるようにして人の流れをつくる

【ウォーターフロント地区に関する意見】

青森といえば青函連絡船。青函連絡船をフェリーとして復活させることを土台にして周辺の活性化を図って欲しい

八甲田丸から駅の間、食事や買物ができる昭和を再現した店を並べ、リアルなテーマパークに

【その他まちづくり全般に関する意見】

市役所は古く、限界かなと感じるが、駅前への移転は一概に良いとは言えない気もする

駅周辺に豪雪地帯の市民の暮らしぶり、安方が港として栄えた頃の道具等を展示する民族資料館が欲しい

空き店舗を活用し、「淡谷のり子記念館」「相撲の館」「木の丸太のねぶた小屋」「民謡道場」など、文化・芸能の機能を

パサージュ広場をさんぷり横丁のように気軽に食べられる屋台や茶店風の食べ処に

駅周辺地区をより楽しくするために「ミニりんご園」「みやこうた展示参加コーナー」等の整備や青森の特色、独自性を確立するためのコンセプト設定を

コンパクトシティ構想もわかるが、これ以上現駅周辺に都市機能を集積するのは、土地に限界があると思うので、新青森駅周辺をもっと活かしたらどうか

駅周辺地区に「ロマンストーリー」「ラブストーリー」運動を展開し、活性化につなげる

青森市は東北地方で唯一、海に近い県庁所在地であり、水と空気が美味しいともよく言われるので、スイスのツェルマットや富山県の立山・黒部のように、まちなかへの車の乗り入れをある程度規制してはどうか。他県や他国、あるいは次世代にも誇れるまちになるのであれば、一時の不便は我慢してでも、良い水と空気は守るべき

子育て世代を応援する施設、例えば託児所を駅周辺に設置することが必要では

青森市へのJR東日本の支社の誘致

新町通りのアーケードは、個性がなく、閉塞感も強い。開放感を創出する新たなスタイルの形状を考えてはどうか

賑わいを取り戻す起爆剤として、新町通りを含む市街地に大型家電量販店や若者向けファッションビルの誘致を

青森駅周辺を「日本のふるさと、故郷（田舎）の家」を理念に、『昭和レトロな街を再現』しては空きテナントを利用した、県内各市町村のアンテナショップを

駅周辺のホテルをビジネス客中心から滞在型観光客をターゲットに

冬以外は夜店通りで青森スタイルの宵宮を開催（まずは月1回でも良いので長期的に）

県内の素晴らしい食材を使った、食文化の発信を提供するまちづくり

南部レールバスのようなレトロバスをつくり、具体的な体験型ツアーを提供

駅周辺に、アスパムまで足を延ばせない観光客のために青森の名産物を種類・品数とも充実させたお土産屋が欲しい

若者を中心とした買い物客がマイカーで行ける店（雑貨屋、食堂など）を増やしてほしい

中高年者が利用できる店・施設（ドラッグストア、カラオケ店、工芸店など）がほしい

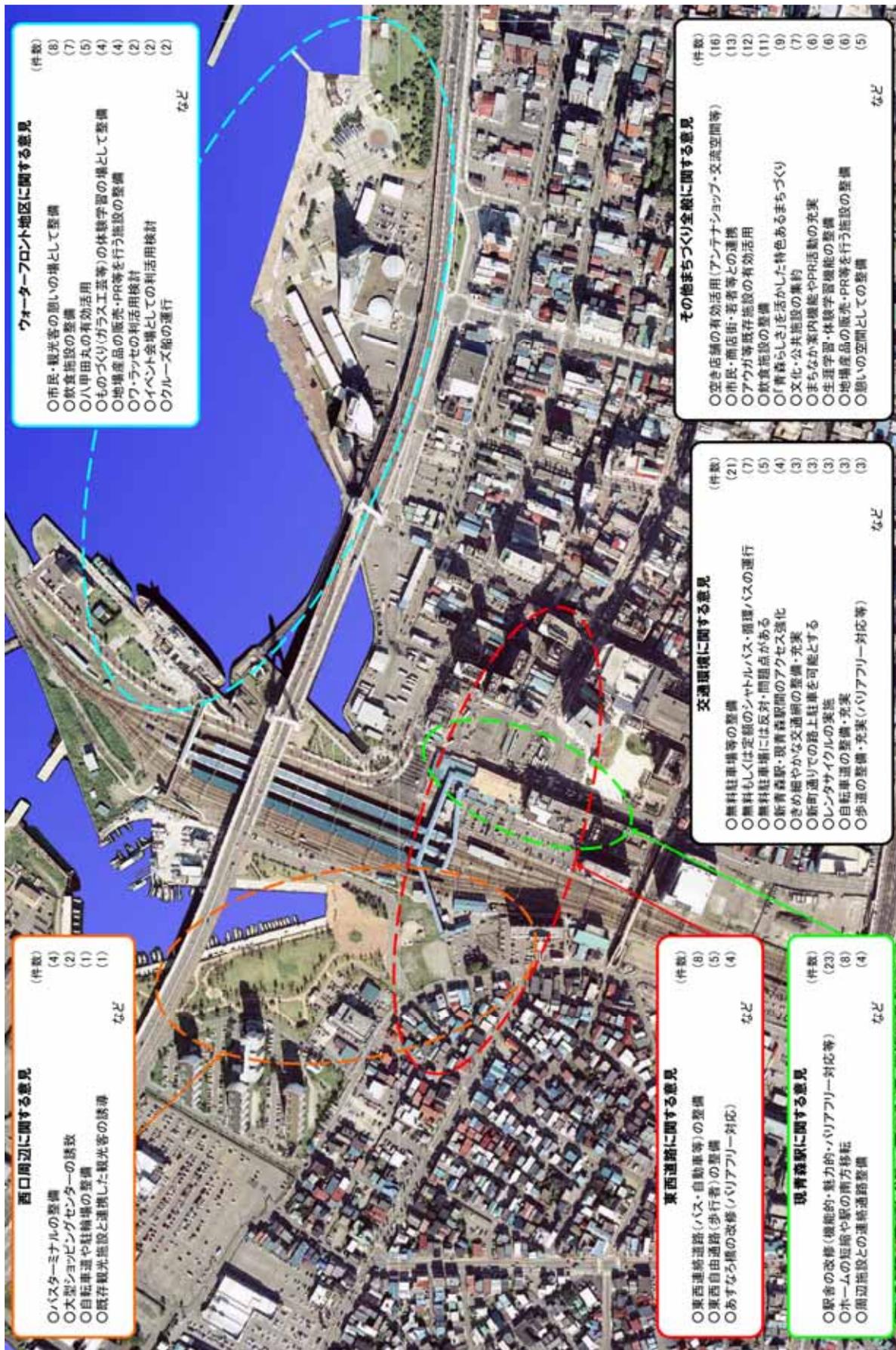


図 4 市民意見概要図

3 - 3 市民意見の総括

【青森駅周辺地区への期待】

市民意見の聴取結果をみると、「現青森駅を中心として活性化していくことは一般市民の思い」「来年の新幹線開業を前に、本市のさらなる発展のための一番重要なこと」といった意見が寄せられるなど、多くの市民が本地区を中心としたまちづくりを進めることが必要であると認識しており、多くの人が集い、賑わう場所であり続けて欲しいと望んでいることがうかがわれました。

【来街利便性の向上】

「中心市街地地区の駐車場の無料化」や「無料もしくはワンコインのバス運行」という意見が多く寄せられるなど、交通環境の不便さを感じていることが推測されます。市民の多くが、ワンストップ型の郊外のショッピングセンターと同様に、中心市街地でも時間を気にせず、楽しみながら買い物・回遊できる環境として、まちへの快適なアクセス性を求めていることがうかがわれます。

【商店街の振興】

まちに賑わいを取り戻すため、「商店街の空き店舗を活用した集客」との意見が多く寄せられました。活用に向けたアイディアは「大学や専門学校のキャンパス」「観光案内や休憩所」「町の駅」「高齢者の交流空間」など、多岐にわたっており、それほどお金をかけなくても、既存の施設を工夫することでまちづくりに有効活用していこうという市民の思いが強いことがうかがわれます。

【新たな賑わい機能の導入期待】

本地区に多くの人を呼び込むため、「観光客と市民双方をターゲットに」という意見に代表されるように、若者、高齢者、親子連れ、観光客等、様々な来街者ニーズに対応できる新たな賑わい機能の導入や更新が求められていることがうかがわれました。観光客に対しては、青森固有の「食」「津軽弁」「郷土芸能」「特産品」など、青森らしさを表現する誘客施設、市民に対しては、日常生活の利便性を高める病院や市役所等の公共・公益施設といった、まちに賑わいを生み出す新たな機能導入が必要ではという意見が寄せられました。

【青森駅の機能更新】

現青森駅舎に寄せられた意見のほとんどが、建て替えを望むものであり、「市民にとって利便性の高い橋上駅舎」「昔風（明治時代）の魅力ある駅舎」など様々であります。市民の駅舎に対する強い思いがうかがわれます。現青森駅が本市の「まちの

顔」として認識されており、また、今後も引き続き、そうあり続けて欲しいという市民の期待の表れと推測されるところです。

【ウォーターフロントの有効活用】

まちと海が近接しているという本市の特性を象徴する地区であるウォーターフロントについては、「景観拠点」、「憩いの場」として、観光客のみならず市民にとって魅力ある空間として認識されていることがうかがわれました。一方では、より魅力を高めるために、「食」「体験学習」「スポーツ」などの新たな賑わい機能を求める声もあるほか、八甲田丸や親水緑地などの既存施設の有効活用のためのアイデアが多数寄せられました。

【東西市街地の一体化】

駅や線路、ホームなどの鉄道施設によって分断されている東西市街地の現状については、多くの市民が「西側の発展が抑制され、新町方面への人の流れが押さえられている」といった問題意識を持っていることがうかがわれます。駅舎の南方移転やホームの短縮により、平面での自動車道路を求める意見や、既存のあすなろ橋の改修を含め、全天候型でバリアフリー対応の歩行者用自由通路の整備を求める意見が数多く寄せられるなど、駅周辺地区の往来を増やし、賑わいを生む手段として、多くの市民が市街地の一体化に期待を寄せていることがうかがわれました。

【西口周辺整備に対する期待】

現状では駅東口に比べ、まちの賑わいが乏しい駅西口周辺については、「まちが発展するためには西口を活用すべき」「西口は青森市のもう一つの顔」といった意見が寄せられるなど、駅周辺地区活性化のキーポイントとして多くの市民が注目していることがうかがわれます。

市民の期待が大きいことの表れとして、「ショッピングセンターやホテルを建設しては」という意見や、新幹線開業後の社会を見据えた新幹線新青森駅とのアクセス性向上という観点から、「西口駅前広場にバスターミナルを整備し、西部方面への玄関口にするべき」といったアイデアが寄せられています。

4. 青森駅を中心としたまちづくりの課題

【駅と社会環境の変化】

青森駅は、前述のとおり明治 24 年に東北本線の終点として開業し、以来奥羽本線の開業、青函連絡船の就航により本州と北海道をつなぐわが国の大動脈の結節点として、また、市民の日常生活に欠かすことのできない交通手段の一つとして、鉄道が都市生活を支えてきました。

戦後の急速な復興と経済成長を遂げた本市ですが、人口の急速な増加や、持家志向、地価上昇等を背景に、徐々に青森駅から遠く離れて市街地が拡大し、他の多くの地方都市と同様に、マイカーに過度に依存したライフスタイルが定着することとなりました。

このモータリゼーションの進展に伴い、商業施設や公共・公益施設の郊外化や都市の空洞化を招き、駅を中心としたまちの魅力が低下し、鉄道離れと相まって、さらに人通りが減少するという、負のスパイラルへと陥り、中心市街地の活性化が求められてきたところです。

本年開催された国連総会において、わが国は温室効果ガス排出量の中期目標として「2020 年までに 1990 年比で 25%削減することを目指す」ことを提唱しており、市民一人一人が、より環境負荷の小さな公共交通利用へとシフトすることを意識するとともに、急速に進む少子高齢化・人口減少社会の到来へ対応し、将来にわたって、安心して快適に暮らせるよう、地域資源である駅や鉄道を、地域や市民が支えあっている意識が求められています。

【新幹線開業による青森駅への影響】

青森駅の乗降客数は昭和 50 年をピークに漸減傾向にありましたが、平成 14 年の東北新幹線八戸開業時に一時増加し、現在はほぼ横ばいの状況にあります。

東北新幹線新青森駅開業に伴い、青森駅における優等列車（特急等）のダイヤ見直し等により、一部のビジネスや観光等、市外・県外客の交通動態が変化することが予想されますが、新青森駅周辺地区は、広域的な玄関口としての役割を担う「都市の玄関口」として位置付けし、商業・業務・文化等が集積している青森駅周辺地区へと誘導する取り組みを進めています。

本市を訪れる観光客等の交流人口の増加が見込まれる中、JR 東日本においても、新幹線からの二次交通として在来線ダイヤ（接続列車）の検討やリゾート列車の運行が計画されており、スムーズな乗り継ぎ等の実現により、青森駅が引き続き本市の顔としての役割を担っていくことが期待されます。

また、青森駅利用の多くを占める通勤・通学等の利用については、少子高齢化等に

より減少が見込まれますが、青い森鉄道線における新駅設置やシームレス化への取り組み等が検討されており、駅をより市民生活と密接な交流の場として捉えていく必要があります。



【鉄道による市街地分断】

駅を中心として形成されてきた都市の多くは、駅・線路による市街地分断によって市街地特性に不均衡が発生し、その解消が課題となっています。

本市においても、あすなる橋、青い海公園連絡橋、青森ベイブリッジの整備により、その解消が図られてきましたが、駅を起点とした場合、いずれも迂回感があり連絡性・利便性が低く、また、冬季の快適性や、バリアフリーへの配慮が求められています。

また、新幹線開業により、特に中心市街地と西部方面との交通流動の増加が見込まれる中、自動車を含む多様な交通手段へ対応し、東西の駅周辺地区へのアクセスの快適性を高め、駅前の持つポテンシャルを十分に活かしていくことが期待されています。

市民意見では、青函連絡船の廃止や並行在来線の経営分離などを踏まえ、市街地分断を解消するため、駅の移転、ホームの短縮を望む意見が寄せられていますが、青森駅には東北新幹線新青森駅開業後の列車運行に必要な鉄道施設が配置されており、それらの再編のためには、北海道新幹線開業後の青森駅における列車ダイヤの変化を踏まえるなど、長期的な視野で検討していく必要があります。

経済の低成長時代の到来により、都市インフラへの投資余力の低下が予想される中、従来のように長期・長大な構想ではなく、時間とコスト意識をより高めながら、効率的で効果的なまちづくりを進めていくことが求められており、鉄道の特殊性や専門性を踏まえ、時機を的確に捉えたまちづくりを進めていく必要があります。

【駅への市民ニーズの多様化】

青森駅は国鉄時代の昭和 34 年に建築され、現在、青い森鉄道線の開業に向けた準備とあわせて新幹線新青森駅開業に向けた小リニューアルが行われていますが、築 50 年を経過し、東北の県庁所在都市の駅では最も老朽化しています。

国においてはバリアフリー新法に基づく基本方針の中で「1 日 5,000 人以上が利用する鉄道駅において、平成 22 年度までに原則すべての駅で段差解消等を実施する」としていますが、青森駅においては一部の基準を満たしていないことから、駅の機能更新等の機会を捉えて、鉄道事業者と連携し、段差解消等に取り組む必要があります。

また、近年、首都圏を中心とした駅ナカビジネスに代表されるように、駅に鉄道機能だけでなく、様々な市民生活に関するサービス機能を併せ持った、複合的な施設として整備する例が多く見られます。駅を移動のための通過点としてではなく、多様な目的を持った人が多く集まる駅の特性を活かし、駅のポテンシャルを引き出し、情報発信力を高め、中心市街地活性化へ結び付けていくことが求められています。



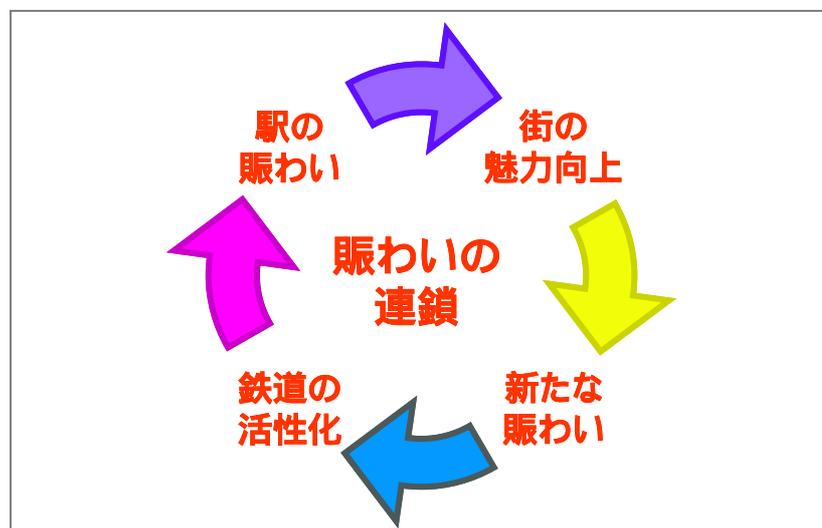
【駅と港とまちとの連携】

本市は、中心市街地にターミナル駅と港が隣接する地理的特性を持っていることから、駅からウォーターフロント地区や商店街へスムーズに、快適に歩くことができる環境づくりを進めています。

ウォーターフロント地区では、ねぶたの家ワ・ラッセや、近代化産業遺産に指定された青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を利活用するとともに、さらに港湾空間の持つ多面的な機能を活かしつつ、青森ならではの地域資源を活かして集客魅力を高め、都市観光フィールドを形成することが求められています。

商店街においては、中心市街地の核的施設であるアウガや、空き地・空き店舗などの既存ストックを活用し、商業のみならず、本市の歴史・文化・芸術の情報発信など、新幹線開業により増加が見込まれる観光客や地域住民の高度化・多様化するニーズの受け皿となる機能の更新・充実を図るほか、顧客と密接な関係性が構築できる商店街の独自性を活かした、地域コミュニティ活動の推進など、来街意欲を醸成する多面的な取り組みが求められています。

また、駅周辺の賑わいを、まちの持つ魅力によって引き出し、回遊により商店街やウォーターフロント地区へ伝播し、各々の魅力が磨かれることにより新たな賑わいへと昇華し、源流となった鉄道利用のさらなる活性化を促すといった、駅とまちと港による賑わいの連鎖によって持続的な発展へと導く取り組みが求められています。



そのためには、駅やまちなかから海や港を感じることものできる眺望点に配慮した景観形成や、多彩なニーズを持った来街者を受け止める個性的な界限空間の形成など、市民、NPO、商店街をはじめ、鉄道やまちづくりに係わる関係者の連携と協働により、これからの青森駅を中心としたまちづくりに取り組んでいく必要があります。

5. 青森駅を中心としたまちづくりの方向等

5 - 1 まちづくりの方向

本市では人口減少・少子高齢化の進展を見据え、都市づくりの基本理念として「コンパクトシティの形成」を推進するとともに、中心市街地の活性化へ取り組んで参りました。

新幹線時代の到来とともに、都市間競争の広域化の一層の進展が見込まれる今日、開業効果を最大限かつ持続的に獲得していくため、中心市街地活性化の歩みを止めることなく、引き続き市政の重点課題として取り組んで参ります。

そこで、多くの市民から都市の顔として活性化が望まれている青森駅周辺地区について、鉄道とまちの賑わいを連鎖的にプラスの方向へ導くことにより、持続的・自律的な再生を図ることを目的に、「青森駅を中心としたまちづくり」を本市中心市街地活性化のトリガー（先行）プロジェクトとして位置付けし、次に掲げるビジョン・コンセプトにより、本プロジェクトを推進して参ります。

自律的：外的な力に頼らなくても軌道に乗っていく状況

ビジョン

～ 鉄道と街を育み 市民の心を元気に～
あおもり 駅まえ 街なか ルネサンス（再生）

コンセプト

- 1 多様なアクセスの快適性を高める 交通のまち
- 2 駅・街・港がひとつになる 回遊のまち
- 3 駅と都市機能の融合による にぎわいのまち
- 4 多彩な人と人が出会う 交流のまち
- 5 青森の個性・魅力が集う 文化発信のまち

（参考）

| | |
|---------|--|
| 多様なアクセス | 鉄道、バス、マイカー、二輪車などの地区内外からの交通手段や移動のしやすさ |
| 回遊 | ある用事を足す目的の来街者が、街歩きがてら複数の施設に立ち寄り、往来すること |
| 都市機能 | 文化、教育、保健、医療、福祉、商業などの都市生活に必要なサービスの提供や居住機能など |
| 多彩な人 | 観光、ビジネス、通勤、通学、買い物などの様々な来街動機を持った老若男女 |
| 個性・魅力 | 都市の顔として、「青森らしさ」「青森ならではの」を感じることのできるモノ、コト、ヒト |

5 - 2 今後の展開

(1) 青森駅を中心としたまちづくり基本計画の策定

青森駅を中心としたまちづくりの実現を図るため、JR 東日本と協力し、自由通路や西口周辺等を含む基本計画を策定します。

(2) 青森駅のバリアフリー化等の推進

全ての人にやさしい青森駅の実現に向け、JR 東日本等と連携し、駅の段差解消をはじめとするバリアフリー化を推進していきます。

(3) 青森駅周辺地区への都市機能の再配置

多様なニーズへ対応し、まちの求心力を高めるため、本地区へ公的施設を含む都市機能の再配置・集約化を進めます。

(4) ウォーターフロントの利活用促進

ウォーターフロント地区での魅力的な賑わい空間を形成するため、多面的な機能導入を促進します。

(5) アウガの活性化に向けた支援強化

駅周辺地区の賑わいをより高めるため、核的施設であるアウガの再生に向けた支援強化を図ります。

(6) 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の保存・活用の検討

本市発展の歴史・文化的遺産である八甲田丸の活性化に向け、保存の意義と役割を踏まえた、今後のあり方について検討します。